

鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院 在宅医療推進のための看護師育成支援事業

令和6年度

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

シラバス



Home Oriented Care

鳥取大学医学部附属病院
医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室



令和6年9月13日 現在

令和6年度 シラバス 目 次

| | |
|----------------------------------|--------|
| I 在宅生活志向を持つ看護師育成コース（1年次） | P. 1～ |
| I 在宅生活志向を持つ看護師育成コース（2年次） | P. 7～ |
| I 在宅生活志向を持つ看護師育成コース（実践コース） | P. 13～ |
| II 在宅医療・看護体験コース..... | P. 19～ |
| III 訪問看護能力強化コース..... | P. 25～ |

※研修内容については予定です。変更になる場合がございます。

鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

【基礎1年次】

令和6年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「基礎1年次」

【目的】 病院看護師が在宅生活志向を高めることができる。

- 【目標】 1. 患者の入院前・退院後の生活を意識することができる。
2. 患者が地域・在宅療養へ移行するために、病院看護師として多職種との連携の必要性を理解することができる。

令和6年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「基礎1年次」

集合研修とHOCノートによる個人課題で行います

| | | |
|-------|-----|-----------------------|
| 個人課題① | ねらい | 受講生自身が受講動機を意識する |
| | 課題 | HOCノート P.1 を記入 |

| | | |
|---------|------|--|
| 第1回集合研修 | 日時 | A ：令和6年7月3日（水） / B ：令和6年7月5日（金） ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分～14時00分 ・グループ討議（対面60分）：14時00分～15時00分 |
| | 会場 | Aグループ：鳥取大学医学部記念講堂 Bグループ：鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4（第二中央診療棟2階） |
| | ねらい | 新人看護師が、在宅生活志向の必要性を知る |
| | 研修内容 | ○講義（オンデマンド視聴（45分～60分）各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴） 「患者を生活の場に戻すために必要な視点」 ○グループ討議（対面60分） 「事例より看護連絡票の活用方法について考える」 |
| | 講師 | ◇ ^{きむら} ^{きみえ} 木村 公恵 ：鳥取大学医学部附属病院 医療福祉支援センター 看護師長 |
| | 課題 | HOCノート P.2～3 を記入 |

| | | |
|-------|-----|------------------------|
| 個人課題② | ねらい | 受講生自身が「今年度の私の目標」を明確にする |
| | 課題 | HOCノート P.4 を記入 |

| | | |
|-------|-----|-------------------------|
| 個人課題③ | ねらい | 受講生が所属施設の退院システムについて知る |
| | 課題 | HOCノート P.6～7 を記入 |

✳️中間評価

| | | |
|------|-----|------------------------|
| 自己評価 | ねらい | 受講生が自己評価をする |
| | 評価 | HOCノート P.30 を記入 |

| | | |
|-----------------|------|---|
| 第14回T-HOC特別セミナー | 日時 | 令和6年9月28日(土) 10時00分～15時00分 |
| | 会場 | 伯耆しあわせの郷 (倉吉市小田458) |
| | ねらい | T-HOC受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。 |
| | 研修内容 | パネルディスカッション、ワークショップ |
| | 講師 | パネリスト 門脇 智尋 ：訪問看護ステーション博愛 作埜 吉美 ：訪問看護ステーションほんわか 中原 裕子 ：訪問看護ステーションせいわ 報告 安住 朋代 ：鳥取県ナースセンター コーディネータ 提言 井上 和興 ：大山診療所/鳥取大学医学部地域医療学講座 |

<Iコース(1年次)・IIコース合同>

| | | |
|---------|-------------------------|---|
| 第2回集合研修 | 日時 | A ：令和6年10月16日(水) / B ：令和6年10月23日(水) ・当日オンデマンド視聴：13時00分～14時00分 ・グループ討議(対面60分)：14時00分～15時00分 |
| | 会場 | Aグループ ：鳥取大学医学部記念講堂 Bグループ ：鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4 (第二中央診療棟2階) |
| | ねらい | 訪問看護ステーションへ出向した看護師から、在宅生活志向への広がりを持った退院支援について学ぶ |
| | 研修内容 | ○講義(オンデマンド視聴(45分～60分)各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「訪問看護ステーションの出向から見た病院看護師の退院支援」 ○グループ討議(対面60分) 「事例を通して退院支援に向けて自分はどう動けるか考えよう」 |
| | 講師 | ◇ 池田 章幸 ：訪問看護ステーションネットケア |
| 課題 | HOCノート P.8～9 を記入 | |

| | | |
|-------|-----|---------------------------|
| 個人課題④ | ねらい | 実際にあなたが行った退院支援について振り返る |
| | 課題 | HOCノート P.10~11 を記入 |

| | | |
|-----------------|---------------------------|--|
| 第3回 集合 研修 | 日時 | A:令和7年1月16日(木) / B:令和7年1月23日(木) ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分 ~ 14時00分 ・グループ討議 (対面 60分) : 14時00分 ~ 15時00分 |
| | 会場 | 鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4 (第二中央診療棟2階) |
| | ねらい | 実際に訪問看護師として活動している若手訪問看護師、新卒訪問看護師の報告や、意見交換により退院支援に必要な視点を理解できる。 |
| | 研修内容 | ○講義 (オンデマンド視聴 (45分~60分) 各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「well being を支える看護」 「若手訪問看護師の実際 ~そこから見えてきた『その人らしさ』~」 ○グループ討議 (対面 60分) 「事例から社会資源を考える」 |
| | 講師 | ◇ ^{あだち ゆみえ} 安達 弓恵 : 訪問看護ステーション コミケア ◇ ^{まつもと あやか} 松本 彩花 : 訪問看護ステーション 友喜 |
| 課題 | HOCノート P.12~13 を記入 | |

| | | |
|-------|-----|------------------------|
| 個人課題⑤ | ねらい | 2年目に向けての目標を明確にする |
| | 課題 | HOCノート P.14 を記入 |

★1年目の自己評価

| | | |
|------|-----|------------------------|
| 自己評価 | ねらい | 受講生が自己評価をする (10点評価) |
| | 評価 | HOCノート P.30 を記入 |

| | | |
|---------------------|----|----------------------------|
| 第15回 T-HOC特別セミナー | 日時 | 令和7年3月 日 () 10時30分～12時50分 |
| | 会場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内容 | テーマ (未定) 講師 (未定) |

Iコース（1年次）に関するページはQRコードから確認できます。➡



鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

【基礎2年次】

令和6年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「基礎2年次」

- 【目的】 病院看護師が在宅生活志向に基づいた入退院支援を実践できる。
- 【目標】
1. 患者の入院前・退院後の生活について必要な情報を得てアセスメントし、その人にあった入退院支援を実践できる。
 2. 適切な入退院支援をするために多職種と連携できる。

令和6年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「基礎2年次」 集合研修とHOCノートによる個人課題で行います。

| | | |
|-----------------|---------------------------|---|
| 第4回 集合 研修 | 日 時 | <ul style="list-style-type: none"> ● A : 令和6年6月20日 (木) / B : 令和6年6月27日 (木) ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分 ~ 14時00分 ・グループ討議 (対面60分) : 14時00分 ~ 15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部記念講堂 |
| | ね ら い | 在宅生活志向に必要な知識の確認ができる。 |
| | 研 修 内 容 | <p>○講 義 (オンデマンド視聴 (45分~60分) 各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「退院後の生活を見据えた看護活動と在宅療養に必要な資源 ~介護保険・医療保険の仕組み~」</p> <p>○グループ討議 (対面60分) 「事例を基にどのようなサービス・指導が必要か考える」</p> |
| | 講 師 | <small>こやま まさみ</small> ◇ 小山 雅美 : 真誠会医療福祉連携センター センター長 |
| 課 題 | HOCノート P.18~19 を記入 | |

＊個人課題⑥：受け持ち患者への退院支援インタビュー（1事例目）

| | | |
|-----------------------|---|---|
| 個 人 課 題 ⑥ | <p>あなたが受け持って退院支援を行った患者（チームで関わった患者）が退院後に、①外来に来られた際、②退院支援カンファレンス参加、③退院前家庭訪問のいずれかで退院後の生活を聞いて、自分の行った退院支援について振り返りを行ってください。</p> <p>この課題は入院時からの関わりが必要ですので、所属部署の管理者（看護師長など）に課題の目的を説明し、協力を得るようにしてください。</p> <p>インタビューは2事例行いますが、HOCノートの提出は1事例ずつ提出です。</p> | |
| | ね ら い | 退院支援を行った受け持ち患者より、実際に退院してからの生活・受講生の退院支援の内容を再確認することができる |
| | 1 事例目 | HOCノート P.20~21 を記入 |

| | | |
|-----------------|--------------------|---|
| 第5回 集合 研修 | 日 時 | A : 令和6年9月19日 (木) / B : 令和6年9月20日 (金) ・当日オンデマンド視聴 : 13時00分 ~ 14時00分 ・グループ討議 (対面60分) : 14時00分 ~ 15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4 (第二中央診療棟2階) |
| | ね ら い | 入院中より担当看護師、新生児集中ケア認定看護師、退院支援専任看護師らが訪問看護師、保健師、地域の行政機関等と連携した退院支援に取り組み、母親と顔の見える関係を築き安心した退院へと繋げている。その実践を紹介し退院支援の具体的方法、担当看護師役割を明確にする。 |
| | 研修内容 | ○講 義 (オンデマンド視聴 (45分~60分) 各施設で事前視聴、又は当日会場にて視聴) 「退院後の生活を見据えた病院看護師と訪問看護師の連携」~新生児・小児編~ ○グループ討議 (対面60分) 「在宅療養を支援する担当看護師としての役割~多職種との連携を図って~」 |
| | 講 師 | ◇安達 香奈 : 鳥取大学医学部附属病院 新生児集中ケア認定看護師 ◇服部 由香 : 鳥取大学医学部附属病院 医療福祉支援センター |
| 課 題 | HOCノート P.22~23 を記入 | |

| | | |
|-----------------------------|-------|---|
| 第14回 T-HOC 特別 セミナー | 日 時 | 令和6年9月28日 (土) 10時00分 ~ 15時00分 |
| | 会 場 | 伯耆しあわせの郷 (倉吉市小田458) |
| | ね ら い | T-HOC 受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。 |
| | 研修内容 | パネルディスカッション、ワークショップ |
| | 講 師 | パネリスト 門脇 智尋 : 訪問看護ステーション博愛 作笠 吉美 : 訪問看護ステーションほんわか 中原 裕子 : 訪問看護ステーションせいわ 報告 安住 朋代 : 鳥取県ナースセンター コーディネータ 提言 井上 和興 : 大山診療所/鳥取大学医学部地域医療学講座 |

※中間評価

| | | |
|----------|-------|---------------------|
| 自己 評価 | ね ら い | 受講生が自己評価をする (10点評価) |
| | 評 価 | HOCノート P.31 を記入 |

***個人課題⑦：受け持ち患者への退院支援インタビュー（2事例目）**

| | | |
|-------|------|---|
| 個人課題⑦ | ねらい | 退院支援を行った受け持ち患者より、実際に退院してからの生活・受講生の退院支援の内容を再確認することができる |
| | 2事例目 | HOCノート P.24~25 を記入 |

| | | |
|---------------------------|---------------------------|--|
| 受け持ち患者への退院支援インタビュー後の意見交換会 | 日時 | A ：令和6年11月 日（ ） 13時30分～15時 B ：令和6年11月 日（ ） 13時30分～15時 |
| | 会場 | 鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4 （第二中央診療棟2階） |
| | ねらい | 受け持ち患者への退院支援インタビューを実施後、他の受講生と情報交換し、実施できている点と課題となることを明確にすることができる。 |
| | 研修内容 | ○グループ意見交換 退院支援をした患者から「外来受診時の対応」「退院支援のカルパス参加」「退院前・退院後家庭訪問」等で聞き取った内容より自分の行った退院支援を振り返る 今後退院支援を行う上での自分自身の課題を見つける |
| | 参加者 | 受講生所属先の地域連携担当者 ◇鳥取県立中央病院 ◇博愛病院 ◇尾崎病院 ◇日野病院 ◇鳥取県立厚生病院 ◇日南病院 ◇米子医療センター ◇岩美病院 ◇鳥取大学医学部附属病院 |
| 課題 | HOCノート P.26~27 を記入 | |

***まとめ ～このコースを通して～**

| | | |
|-------|-----|---------------------------|
| 個人課題⑧ | ねらい | 2年間の学びと今後の課題を明確にする |
| | 課題 | HOCノート P.28~29 を記入 |

※2年間を通しての評価

| | | |
|------|------|------------------------|
| 自己評価 | ねらい | 受講生が自己評価をする（10点評価） |
| | 評価内容 | HOCノート P.31 を記入 |

| | | |
|-----------------|----|---------------------------|
| 第15回T-HOC特別セミナー | 日時 | 令和7年3月 日（ ） 10時30分～12時50分 |
| | 会場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内容 | テーマ（未定） 講師（未定） |

Iコース（2年次）に関するページは下記のQRコードから確認してください。➡



鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース
【実践コース】

令和6年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

«実践コース» (基礎コース(2年間)を修了した者)

【目的】 病院勤務看護師が在宅生活志向を高める。

- 【目標】 1.病院看護師の在宅生活志向を強化し、退院支援の実践に活かすことができる。
- 2.患者とその家族が、在宅療養を送るために必要な地域の資源を提供することができる。
- 3.必要に応じて、多職種との連携を加味した退院支援を実践することができる。

令和6年度 I 在宅生活志向をもつ看護師育成コース

「実践コース」 集合研修、HOCプラスノートによる個人課題及び各実習を行います

| | | |
|-----|-----|--------------------------|
| 課題① | ねらい | 受講生自身が目標を明確にする |
| | 課題 | HOCプラスノート P.1 を記入 |

<実践コース・IIコース・IIIコース合同>

| | | |
|---------|------|---|
| 第1回集合研修 | 日時 | 令和6年6月26日(水) 10時50分～12時20分 |
| | 会場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟1階 211 講義室 |
| | ねらい | 訪問看護師の役割を知ることで、生活を中心とした看護の視点を明確にする。 |
| | 研修内容 | ○講義 「訪問看護師の役割・機能・特性」 |
| | 講師 | ◇ ^{すずき たえ} 鈴木 妙 : 鳥取県訪問看護支援センター 所長 (在宅ケア特定認定看護師) |
| | 課題 | HOCプラスノート P.2～3 を記入 |

訪問看護ステーション実習(5日間)

| | | |
|----|-----|--|
| 実習 | 期間 | 令和6年 7月～12月 |
| | ねらい | 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる。 |
| | 実習先 | 東・中・西部の指定した訪問看護ステーション ※実習要項参照 |
| | 課題 | ◆訪問看護ステーション実習レポート ※実習要項参照 |

地域包括支援センター実習(1日)

| | | |
|----|-----|---|
| 実習 | 期間 | 令和6年 7月～12月 |
| | ねらい | 病院看護師が、地域包括ケアシステムの中で地域包括支援センターが実際に行っている 地域住民への働きかけを知る。 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 |
| | 実習先 | 東・中・西部の指定した地域包括支援センター ※実習要項参照 |

※訪問診療同行実習（1日）※

| | | |
|----|-------|--------------------------------------|
| 実習 | 期 間 | 令和6年 7月～12月 |
| | ね ら い | 病院看護師が、在宅療養者の生活を支援する一つである訪問診療の実際を知る。 |
| | 実 習 先 | 中・西部の指定した在宅療養診療所 ※実習要項参照 |

※退院支援実習※

| | | |
|----|-------|---|
| 実習 | 期 間 | 令和6年 7月～12月 |
| | ね ら い | 退院前カンファレンスの参加、自宅訪問等を通じて患者の生活を理解し、より具体的な退院支援の視点を持つ。 |
| | 実習方法 | <p>① 退院支援が必要な患者の中で、退院前カンファレンスの実施や退院後に自宅等へ訪問できる対象者を1事例選択する。（訪問対象者、訪問時期、訪問形式等はそれぞれの所属部署の管理者（看護師長など）と相談して決定してください。）</p> <p>② 退院前カンファレンスの参加、退院前・退院後家庭訪問などを含めた退院支援を行う。</p> <p>③ 自分が行った退院支援を振り返る。 ・退院支援どの程度の個別性が加味されていたか。 ・具体的な退院支援が行えていたか。 など</p> |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.6～9 を記入 |

<第2回集合研修>

| | | |
|-----------------|-------|--|
| 第14回T-HOC特別セミナー | 日 時 | 令和6年9月28日（土） 10時00分～ 15時00分 |
| | 会 場 | 伯耆しあわせの郷 （倉吉市小田458） |
| | ね ら い | T-HOC受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。 |
| | 研修内容 | パネルディスカッション、ワークショップ |
| | 講 師 | <p>パネリスト 門脇 智尋：訪問看護ステーション博愛 作埜 吉美：訪問看護ステーションほんわか 中原 裕子：訪問看護ステーションせいわ 報告 安住 朋代：鳥取県ナースセンター コーディネータ 提言 井上 和興：大山診療所/鳥取大学医学部地域医療学講座</p> |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.4～5 を記入 |

<実践コース・Ⅲコース合同>

| | | |
|-----------|--------|---|
| 実習後の意見交換会 | 日 時 | 令和6年12月 日 () 13時30分～ 15時30分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟6階 261講義室 |
| | ね ら い | 所属先や経験が異なる受講生がお互いの学びを共有することで理解を深め今後の看護実践に活かすことができる |
| | 研修内容 | <報 告> ○実習を通しての学びと感想 <グループ討議> ○実習での経験をどう看護実践に活かすか |
| | アドバイザー | ◇実習先の訪問看護ステーション管理者 |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.10～11 を記入 |

| | | |
|---------|-------|--|
| 第3回集合研修 | 日 時 | 令和7年2月14日(金) 13時30分～ 16時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟6階 261講義室 |
| | ね ら い | 3年間の学びを、今後の看護活動にどのように反映するか明確にする。 |
| | 研修内容 | ○講 義 「在宅生活志向の看護の実践に向けて」(Ⅲコースと合同) ○グループ討議 「T-HOCでの学びを今後の在宅生活志向の看護にどのように活かすか」 |
| | 講 師 | ◇岩本 大希 : ウィル訪問看護ステーション 所長 |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.12～13 を記入 |

*私の成長～このコースを通して～

| | | |
|------|-------|------------------------------|
| 自己評価 | ね ら い | 受講生自身が自己評価する(10点評価) |
| | 課 題 | HOCプラスノート P.14～15 を記入 |

| | | |
|-----------------|-----|------------------------------|
| 第15回T-HOC特別セミナー | 日 時 | 令和7年3月 日 () 10時30分 ~ 12時50分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内 容 | テーマ (未定) 講 師 (未定) |

Iコース (実践) に関するページはQRコードから確認してください。➡



鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

Ⅱ 在宅医療・看護体験コース

令和6年度 II在宅医療・看護体験コース

【目的】 3年目以上の看護職（准看護師を含む）、未就業の看護職経験者が、在宅で生活できるための具体的な患者支援方法について体験し、実践することができる

【目標】 体験実習により、患者の生活をイメージする力を養成する。

- 1.退院後の患者の生活をイメージする力を養成する。
- 2.在宅療養者及び家族に対して果たす役割・機能・特性を理解する。
- 3.患者が療養の場を移行する際に、看護の継続性を重視したマネジメントができる。

令和6年度 II在宅医療・看護体験コース

| | | |
|---------|-------|---|
| 第1回集合研修 | 日 時 | 令和6年 6月26日 (水) |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟1階 211講義室 |
| | ね ら い | ・訪問看護師の役割や、実際の業務について学ぶ ・介護保険のサービス利用に至る過程や、在宅医療体制の中での訪問看護の役割を学ぶ |
| | 研修内容 | <p style="text-align: center;">(10時50分～12時20分)</p> <p>○講義 訪問看護師の役割・機能・特性 <実践コース・IIコース・IIIコース合同></p> <p style="text-align: center;">◇^{すずき たえ}鈴木 妙 : 鳥取県訪問看護支援センター 所長 (在宅ケア特定認定看護師)</p> <hr/> <p style="text-align: center;">(13時30分～15時00分)</p> <p>○講義 医療保険・介護保険の仕組み</p> <p style="text-align: center;">◇^{いけだ のぶお}池田 伸夫 : 北栄町福祉課地域包括支援センター センター長</p> |

| | | |
|---------|-------|--|
| 第2回集合研修 | 日 時 | 令和6年8月1日 (木) 13時30分～15時30分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟6階 261講義室 |
| | ね ら い | 多職種連携の中でみえる地域での看護師の役割を学ぶ |
| | 研修内容 | ○講 義 「安心して在宅で暮らすために～在宅看護の力～」 ○グループ討議 「地域を見据えた退院支援を進める為に今、実践する事」 |
| | 講 師 | ◇ ^{せお ゆうじん} 瀬尾 勇仁 : ホームベースドケア訪問看護ステーション 管理者 |

＊退院後家庭訪問実習＊

| | | |
|-----|-------|---|
| 実 習 | 日 程 | 令和6年 7月～10月 (所属部署管理者と相談のうえ、調整してください。) |
| | ね ら い | 入院・入所中に退院支援を行った患者に対して、退院後訪問を行い、実際の在宅療養生活を理解するとともに、自己の看護実践を振り返る。 今後の施設内での看護に必要なことは何かを明確にし、より専門的に個別性をふまえて退院に向けての支援を計画できる能力を養う。 |
| | 実習方法 | 退院支援を行った事例の中から、在宅療養者の了承を得て家庭訪問を行う。 ※訪問対象者、訪問時期、訪問形式等はそれぞれの所属部署管理者 (看護師長など) と相談して決定してください。 *対象 (事例) に困られた場合は、T-HOC 支援室へご相談ください。 |
| | 課 題 | ◆退院後家庭訪問実習レポート ※実習要項参照 |

＊訪問看護ステーション実習（3～5日間）＊

| | | |
|--------|-------|--|
| 実 習 | 日 程 | 令和6年 7月～10月 |
| | ね ら い | 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる。 |
| | 実 習 先 | 東・中・西部の指定した訪問看護ステーション ※実習要項参照 |
| | 課 題 | ◆訪問看護ステーション実習レポート ※実習要項参照 |

| | | |
|-------------------------------------|-------|---|
| 第 14 回 T-HOC 特別 セミナー | 日 時 | 令和6年9月28日（土） 10時00分～ 15時00分 |
| | 会 場 | 伯耆しあわせの郷 （倉吉市小田458） |
| | ね ら い | T-HOC 受講生と総合診療医、医学生および看護学生、地域の行政が対話し、地域における医療従事者の専門性や医療看護の現状・課題を理解し、相互に連携できる関係づくりを目指す。 |
| | 研修内容 | パネルディスカッション、ワークショップ |
| | 講 師 | パネリスト 門脇 智尋：訪問看護ステーション博愛 作埜 吉美：訪問看護ステーションほんわか 中原 裕子：訪問看護ステーションせいゆ 報告 安住 朋代：鳥取県ナースセンター コーディネータ 提言 井上 和興：大山診療所/鳥取大学医学部地域医療学講座 |

<Ⅰコース（1年次）・Ⅱコース合同>

| | | |
|---------------------------------|------------------|--|
| 第 3 回 集 合 研 修 | 日 時 | 令和6年10月16日（水）13時00分～15時00分 ・当日オンデマンド視聴：13時00分～14時00分 ・グループ討議（対面60分）：14時00分～15時00分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部記念講堂 |
| | ね ら い | 訪問看護ステーションへ出向した看護師から、在宅生活志向への広がりを持った退院支援について学ぶ |
| | 研修内容 | ○講 義（会場にて動画視聴（45分～60分）） 「訪問看護ステーションの出向から見た病院看護師の退院支援」 ○グループ討議「事例を通して退院支援に向けて自分はどう動けばいいか考えよう」 |
| | 講 師 | ◇池田 章幸：訪問看護ステーションネットケア |
| 課 題 | HOCノート P.8～9 を記入 | |

<Ⅱコース・Ⅱコースに興味のある看護師合同>

| | | |
|-----------|---------------------|---|
| 実習後の意見交換会 | 日 時 | 令和6年12月 日 () 13時30分～15時30分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部附属病院 会議室3, 4 (第二中央診療棟2階) |
| | ね ら い | 実習で学んだことを、他の実習先で学んだ受講生と情報交換をし、学びを深める。 |
| | 研修内容 | «報 告» 実習を通しての学びと感想 «グループ討議» 実習での経験をどう継続看護に活かすか |
| アドバイザー | ◇ 実習先の訪問看護ステーション管理者 | |

| | | |
|-----------------|-----|----------------------------|
| 第15回T-HOC特別セミナー | 日 時 | 令和7年3月 日 () 10時30分～12時50分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内 容 | テーマ (未定) 講 師 (未定) |

Ⅱコース受講生に関するページは右記のQRコードから確認してください。➡



鳥取県地域医療介護総合確保基金

鳥取大学医学部附属病院

在宅医療推進のための看護師育成プログラム

Ⅲ訪問看護能力強化コース

令和6年度 Ⅲ訪問看護能力強化コース

【目的】 訪問看護師に必要な知識・技術の向上を図る。

【目標】 受講生のニーズに応じて訪問看護に必要な知識、技術の向上を図る

- 1.在宅療養者及び家族を全人的に捉え、専門的な知識と質の高い看護を提供できる。
- 2.在宅療養者が療養の場を移行する際に、医療と介護の連携、看護の継続性を重視したマネジメントができる。
- 3.より質の高い医療を推進するため、多職種と協働しチームの一員として役割を果たすことができる
- 4.地域包括ケアシステムを効果的に活用した療養者支援の質向上のため、看看連携におけるリーダーとして地域の人材育成の役割を果たすことができる。

令和6年度 Ⅲ訪問看護能力強化コース

| | | |
|------------------|---|---|
| 必 須 講 義 | 日 時 | 令和6年6月26日(水) 9時～12時20分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟1階 211講義室 |
| | ね ら い | ID103：訪問看護師の役割や、実際の業務について学ぶ ID601：訪問看護実践に役立つ概念や理論を知り、実践への活用について考えることが出来る |
| | 講義 ID 103 | (10時50分～12時20分) ○訪問看護師の役割・機能・特性 <実践コース・Ⅱコース・Ⅲコース合同> |
| | 講 師 | ◇ ^{すずき たえ} 鈴木 妙：鳥取県訪問看護支援センター 所長 (在宅ケア特定認定看護師) |
| | 講義 ID 601 | (9時00分～10時30分) ○訪問看護実践に役立つ概念・理論 |
| 講 師 | ◇ ^{にしな ゆうこ} 仁科 祐子：鳥取大学医学部 保健学科 地域・精神看護学講座 教授 | |

＊訪問看護ステーション実習（2～3日間）＊

| | | |
|--------|-------|--|
| 実 習 | 期 間 | 令和6年 7月～12月 |
| | ね ら い | 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 訪問看護師として多職種と協働する必要性や役割を理解できる。 |
| | 実 習 先 | 東・中・西部の指定した訪問看護ステーション ※実習要項参照 |
| | 課 題 | ■訪問看護ステーション実習レポート ※実習要項参照 |

＊地域包括支援センター実習（1日）＊

| | | |
|--------|-------|--|
| 実 習 | 期 間 | 令和6年 7月～12月 |
| | ね ら い | 病院看護師が、地域包括ケアシステムの中で地域包括支援センターが実際に行っている 地域住民への働きかけを知る。 家族を含めた利用者に対し専門的知識と個別性を踏まえた支援の展開を知る。 |
| | 実 習 先 | 東・中・西部の指定した地域包括支援センター ※実習要項参照 |

<実践コース・Ⅲコース合同>

| | | |
|-----------|--------|--|
| 実習後の意見交換会 | 日 時 | 令和6年12月 日 () 13時30分～15時30分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部アレスコ棟6階 |
| | ね ら い | 所属先や経験が異なる受講生がお互いの学びを共有することで理解を深め今後の看護実践に活かすことができる |
| | 研修内容 | «報告» ○実習を通しての学びと感想 «グループ討議» ○実習での経験をどう看護実践に活かすか |
| | アドバイザー | ◇ 実習先の訪問看護ステーション管理者 |

| | | |
|-----------------|-----|----------------------------|
| 第15回T-HOC特別セミナー | 日 時 | 令和7年3月 日 () 10時30分～12時50分 |
| | 会 場 | 鳥取大学医学部 記念講堂 |
| | 内 容 | テーマ (未定) 講師 (未定) |

Ⅲコースに関するページは右記のQRコードから確認できます。➡



＜選択講義＞

| | | | |
|---------------------------------|--|----------------|---------|
| ねらい | 訪問看護師に必要な知識・技術の向上を図る | | |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ● 受講生が習得したい分野に関連する科目を中心に30講義以上を受講する。 ● 必須講義 (ID103・ID601) は必ず受講する。 ● 訪問看護に関する学会・研修会・鳥大看護部コース研修への参加についても30講義に含めることができる。 (但し、看護部コース研修は1コースの講義数のみ、学会・研修会については最大2つまでとする) ● 30講義以上受講し、「I在宅医療の社会システム」「II在宅医療に必要な病態学」「III訪問看護に必要な技能」の中から1講義以上を受講した方は「T-HOC在宅支援ナース」として認定証及びバッジを授与いたします。 | | |
| 科目 | I 在宅医療の社会システム | 1.地域包括ケアシステム | |
| | II 在宅医療に必要な病態学 | 2.在宅医療病態論 | |
| III 訪問看護に必要な技能 | 3.在宅における医療処置管理 | 7.家族支援 | 11.指導 |
| | 4.在宅薬剤管理 | 8.エンド・オブ・ライフケア | 12.看護倫理 |
| IV 訪問看護に必要な知識の習得のための研修会や、学術集会参加 | 5.デジタルヘルス | 9.対人関係 | 13.看護技術 |
| | 6.セルフケア支援 | 10.リーダーシップ | |

※学部別講義 (総括科目の講義) は保健学科の学生と一緒に聴講します。

＊T-HOC講義時間

| | |
|-----|-------------|
| 1時限 | 9:00～10:30 |
| 2時限 | 10:40～12:10 |
| 3時限 | 13:00～14:30 |
| 4時限 | 14:40～16:10 |

【重要！】 講義によっては、上記の時間と異なる場合があります。

受講前には、必ず「講義時間・講義室」を確認してください。

I 在宅医療の社会システム

1. 地域包括ケアシステム

医療・介護サービス提供体制、地域包括システムの概念、多職種連携、訪問看護師の役割・機能・特性、退院調整のケアマネジメントについて理解する。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|-------|--|---|--------------------|--------------------------------|---|----------------------------|
| 0101 | 7月25日(木) 9:00~10:30 | 地域包括ケアシステムの概念・機能 | ふなき としえ 船木 敏江 | 米子市ふれあいの里地域包括支援センター | 地域包括ケアシステムについての概念や事業内容、地域包括ケアシステム構築のための取り組みなどについて講義。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0102 | 7月25日(木) 10:40~12:10 | 訪問看護の制度とその活用 | はせがわ ようこ 長谷川 洋子 | 元名古屋女子大学健康科学部看護学科在宅看護学 | 訪問看護制度の歴史、訪問看護に関する制度、訪問看護で介護保険と医療保険の使い分けについて学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0103 | 6月26日(水) 10:50~12:20 | ★必須 訪問看護師の役割・機能・特性 (※実践・IIコース合同) | すずき たえ 鈴木 妙 | 鳥取県訪問看護支援センター (在宅ケア特定認定看護師) | 訪問看護に求められる看護の視点と、訪問看護師の基本姿勢と責務や役割、実際の業務について学ぶ。 | アレスコ棟1階 211講義室 |
| 0104 | 10月17日(木) 14:40~16:10 | 在宅における診療報酬 | いしばし さちこ 石橋 佐智子 | 訪問看護ステーション博愛 | 介護保険、医療保険の制度や訪問看護の現場での保険の使い分けや加算などについて講義 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0105 | 9月25日(水) 10:40~12:10 | 地域医療と多職種連携 | たかみ とおる 高見 徹 | 日南病院 名誉院長 | 在宅におけるチーム医療の基本を学び、多職種とどのような協働を行うか、チーム医療で生じる問題を解消するための連携のポイントなどを学ぶ | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0106 | R7 2月14日(金) 13:30~16:00 | 在宅生活志向の実践に向けて (実践コース・IIIコース合同) | 岩本 大希 | ウィル訪問看護ステーション | 「全ての人が帰る選択肢を」をmissionに、24時間365日、全ての人を対象に在宅看護サービスを提供している取り組みから在宅生活志向の視点や家族の定義、ストレングスモデルなどについて講義。 | アレスコ棟6階 261講義室 |

II 在宅医療に必要な病態学

2. 在宅医療病態論

複数疾患や加齢による機能低下を有する療養者の病態・治療・看護について理解する。医療依存度の高い在宅療養者の病態・治療・看護を理解する。

終末期在宅療養者の病態・治療・看護について理解する。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|-------|--------------------------|--|--------------------|------------------------------------|---|----------------------------|
| 0201 | 8月6日(火) 9:00~10:30 | 訪問看護の現場でのギモンとホンネ ～病気の病態や治療、医師との連携、 知識の学び方などのギモンにお答えします！～ | いのうえ かずおき 井上 和興 | 大山診療所 / 鳥取大学医学部 地域医療学講座 | 訪問診療の医師と職種間コミュニケーションについて、 訪問診療での事例と参加者のみなさんの体験を通して 振り返り、現場での行動を考える。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0202 | 9月25日(水) 13:00~14:30 | 在宅医療における整形外科的疾患 (骨粗鬆症など) | おさき まり 尾崎 まり | 鳥取大学医学部附属病院 リハビリテーション部 | 骨の役割を始めとして老化、骨粗鬆症の病態と薬物 治療、骨粗鬆症性骨折の所見や画像、治療などにつ いて講義。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0203 | 10月9日(水) *10:10~11:50 | 小児の在宅医療について | せがわ ちはる 瀬川 千春 | 博愛こども発達・在宅支援センター 小児救急認定看護師 | 子供たちの障がいの種類と小児在宅医療の現状と課 題。在宅に移行する視点、家族支援やその他必要と なる支援について学ぶ。 | *博愛こども・在宅ケ アクリック |
| 0204 | 11月5日(火) 9:00~10:30 | 在宅看護に役立つ認知症の情報 ～認知症をきたす疾患への正しい理解～ | うらかみ かつや 浦上 克哉 | 鳥取大学医学部 保健学科 認知症予防学講座 (寄附講座) | 動画を通して認知症をきたす代表疾患を正しく理解す る。認知症の病態と、適切な薬剤管理を行うための使 用薬剤の作用機序を学ぶ。認知症とせん妄の鑑別を 理解し、看護師の役割を知る。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0205 | 10月29日(火) 10:40~12:10 | 情報通信技術を用いた在宅呼吸管理 ～遠隔モニタリングが開く新しい医療～ | ぶりおか なおと 鯛岡 直人 | 鳥取大学医学部 保健学科 病態検査学 | 在宅酸素療法(酸素濃縮器、SPO2、CPAP)の遠 隔モニタリングについての実際や利点・今後の課題につ いて講義。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0206 | 6月26日(水) 13:00~14:30 | 神経系疾患 「訪問看護に必要な痙攣の診かた ～てんかん発作を中心に～」 | よしおか しんいち 吉岡 伸一 | 鳥取大学医学部 名誉教授 | 動画を用いて、てんかん発作を中心に、訪問看護に必 要な痙攣の診かたや対処法を学びます | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

Ⅲ訪問看護に必要な技術

3.在宅における医療処置管理

複数疾患や加齢による機能低下を有する療養者の病態・治療・看護について理解する。医療依存度の高い在宅療養者の病態・治療・看護を理解する。

終末期在宅療養者の病態・治療・看護について理解し、安全に行うための技術を習得する。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|-------|--|--|--------------------|---------------------------------|--|----------------------------|
| 0301 | 12月13日(金) 13:00~14:30 14:40~16:10 *連続受講 | ポータブルエコーによる全身管理 (講義・演習) | かとう まさひこ 加藤 雅彦 | 鳥取大学医学部保健学科 病態検査学 | 在宅でのポータブルエコーによる診断の有用性を知り、ポータブルエコーで観察すべきポイントを学ぶ。実際にエコーを使って操作法を体験する。 | アレスコ棟1階 在宅看護実習室 |
| 0302 | 月 日 () ~ ~ *連続受講 | 在宅呼吸療法(講義) ----- 在宅呼吸療法とNPPV(講義・演習) | はせがわ ひろえ 長谷川 裕恵 | 鳥取大学医学部附属病院 呼吸療法認定士 | 呼吸器疾患の病態からADL指導や栄養管理のポイント、NPPVについて(適応やモード、皮膚トラブルなど)実際に呼吸器マスクの着用や機器の取り扱いなどを体験する | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0303 | 10月31日(木) 14:40~16:10 | 在宅における栄養管理の実際 | きじま えみ 木嶋 恵美 | 錦海リハビリテーション病院 管理栄養士 | 栄養アセスメント、栄養関連の在宅支援、訪問栄養食事指導の実際について学ぶ。 | 第2中央診療棟 シミュレーションセンター |
| 0304 | 9月25日(水) 14:40~16:10 | がん性疼痛と看護 | やざま ともみ 矢間 友美 | 鳥取大学医学部附属病院 緩和ケア認定看護師 | 疼痛のアセスメント・評価の方法、鎮痛剤の使い分け、鎮痛剤(麻薬)の副作用への対応や、レスキューの使い方や評価方法などについて講義。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0305 | 9月4日(水) 13:00~14:30 | 在宅療養者のQOL向上のための口腔ケア ~有効な口腔ケアの方法を学ぶ~(講義) | どい きょうこ 土井 教子 | どい歯科クリニック | 口腔のしくみと働き、異常、口腔内の観察方法、口腔内感染と全身疾患の関係、義歯の取り扱い、在宅療養患者(重症心身障がい児を含む)の口腔の問題などについて学ぶ | 第2中央診療棟4階 シミュレーションセンター |
| 0306 | 9月4日(水) 14:40~16:10 | 在宅療養者のQOL向上のための口腔ケア ~有効な口腔ケアの方法を学ぶ~(演習) | わたなべ やすこ 渡辺 靖子 | 鳥取大学医学部附属病院 診療支援技術部 歯科衛生士 | 事例を基に疾患別でのケアプランやケアの工夫、ケア用品の選択などについて講義。口腔ケアを実際に相互演習し手技を学ぶとともに患者体験をします。 | 第2中央診療棟4階 シミュレーションセンター |

| 講座ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|------|--------------------------|---------------------------|-------------------|---|--|----------------------------|
| 0307 | 11月25日(月) 13:00~14:30 | 呼吸ケア | ほそだ ゆきこ 細田 有紀子 | 鳥取大学医学部附属病院 集中ケア認定看護師 | フィジカルアセスメントを活かした呼吸ケアとしての ポジショニング | 第2中央診療棟4階 シミュレーションセンター |
| 0308 | 7月18日(木) *10:30~12:00 | 【地域生活看護実践課程演習：公開講座】(特別講義) | おかだ えつこ 岡田 悦子 | 米子医療センター 地域医療連携室看護師 | 疾患や障がいと共に生きる対象者が地域・在宅で安心して生活していくための医療と生活を統合した看護について学ぶ | アレスコ棟6階 262 講義室 |
| 0309 | 8月22日(木) 14:40~16:10 | 在宅における感染対策 | かみなだ のぶこ 上灘 紳子 | 鳥取大学医学部附属病院 感染症管理認定看護師 | 手指衛生をはじめとした標準予防策について、在宅における感染経路別予防策について | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0310 | 11月25日(月) 14:40~16:10 | 在宅でのリハビリテーション | ほしやま のぞみ 星山 望 | 錦海川リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部 作業療法士 | 在宅におけるリハビリテーションについて基本的な流れ、理学療法、作業療法、言語聴覚療法について実践方法を学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

☆看護部コース研修 ※詳細は別途ご案内いたします。

| ID | コース名 | | 講義内容 | 講義室 | |
|------|-------------|----------|---|---|-------------------|
| 0311 | 【褥瘡ケアコース】 | 単回の受講は不可 | 褥瘡発生概念・要因分析、予防・管理、スキンケア、栄養管理など症例検討や演習を交えて学ぶ | 医学部附属病院 会議室3.4 他 | |
| 0312 | 【糖尿病コース】基礎編 | 単回の受講は不可 | 日々変化していく糖尿病の治療法や看護の基礎を多職種の見点から知り日々の看護に活かす | 医学部附属病院 会議室3.4 他 | |
| 0313 | 【高齢者看護コース】 | 単回受講可 | 6/27~10/30 全5回 | 高齢者・認知症患者を理解しその人らしさを尊重した看護の実践に役立つ内容 | 医学部附属病院 会議室3.4 |
| 0314 | 【退院支援コース】 | 単回受講可 | 7/2~11/15 全4回 | 退院支援のこんなこと、誰に聴いたらよいかかわらいひ疑問解消に向け楽しく学びます | 医学部附属病院 会議室3.4 |
| 0315 | 【感染対策コース】 | 単回の受講は不可 | 7/4~1/16 全7回 | 感染対策を推進する人材育成を目的とし、必要な知識・技術の習得を目指す | 医学部附属病院 会議室3.4 |

| ID | コース名 | | | 講義内容 | 講義室 |
|------|-----------|-------|----------------|--|--------------------|
| 0316 | 【人工呼吸器管理】 | 単回受講可 | 7/26～12/16 全6回 | 人工呼吸器・NPPV の管理・看護、呼吸リハビリテーションなどの知識と技術の向上を目指します | シミュレーションセンター他 |
| 0317 | 【排泄ケア】 | | 8/5～9/2 全3回 | 排尿・ストーマに関する基礎知識、アセスメントやケアに最低限必要な看護技術の習得を学ぶ | 医学部附属病院 会議室 3.4 |

4.在宅薬剤管理

加齢による機能低下や複数疾患を有する療養者・医療依存度の高い療養者の在宅薬剤管理について理解する。

| 講座ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|------|-------------------------|--|--------------------|--------------------|--|----------------------------|
| 0401 | 10月9日(水) 13:00～14:30 | 複数疾患や加齢による機能低下を有する療養者の在宅薬剤管理 (心疾患・糖尿病に使用する薬剤を中心に) | おおた ゆうき 太田 友樹 | 鳥取大学医学部附属病院 薬剤部 | 高齢者の薬剤管理について、注意すべき副作用・服薬中の指導・副作用発見のポイントや服薬管理における看護師の役割を学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0402 | 10月9日(水) 14:40～16:10 | 痛みの評価と薬の使い方(在宅での麻薬管理/残薬管理/PCAポンプの使い方) | かやぎ けいすけ 栢木 啓介 | 鳥取大学医学部附属病院 薬剤部 | 在宅での麻薬管理、レスキューを使うタイミング、残薬管理、PCAポンプの使い方について | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| 0403 | 8月22日(木) 13:00～14:30 | 神経難病の治療と薬剤管理 (パーキンソン病を中心に) | わたなべ やすひろ 渡辺 保裕 | 鳥取大学医学部 脳神経内科学 | パーキンソン病の病態から使用薬剤と副作用について。適切な薬剤管理を行うための症状観察のポイントを理解する。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

5.フィジカルアセスメント

在宅療養中に起こりえる症状の変化に対し、異常の早期発見、予後の予測、早期診断をするためにフィジカルアセスメントを実践する。フィジカルアセスメントの結果・情報を多職種と共有するために、観察結果を適切に言語化する。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|-------|--|-------------|-------------------|--|--|---|
| 0501 | 9月12日(木) 9:00~10:30 10:40~12:10 13:00~14:30 14:40~16:10 ※連続受講 | 呼吸・循環機能(基礎) | なかもと ゆうじ 中本 有史 | 鳥取大学医学部附属病院 特定看護師/ クリティカルケア認定看護師 | ・呼吸器系、循環器系のフィジカルイグザムについて理解し実践できるよう体幹を使用し学ぶ。 ・身体所見や検査から病態を把握しメンバーとコミュニケーションをとりながらアセスメントモデルを使用し、フィジカルアセスメントを行う。 | 第2中央診療棟 4階 シミュレーションセンター (昼休憩: 打合せ室) |
| | | 呼吸・循環機能(応用) | | | | |
| 0502 | 11月20日(水) 13:00~14:30 14:40~16:10 ※連続受講 | 脳/神経機能① | なかもと みさき 中本 美先 | 鳥取大学医学部附属病院 脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師 | 中枢神経系の全体像を理解し、代表的疾患を例に観察ポイントからフィジカルアセスメント技術について事例を用いて学ぶ。日常生活での予防や看護について学ぶ。 | 第2中央診療棟 4階 シミュレーションセンター |
| | | 脳/神経機能② | | | | |
| 0503 | 10月31日(木) 13:00~14:30 | 感覚・運動機能 | いしが なつこ 石賀 奈津子 | 鳥取大学医学部附属病院 心臓リハビリ指導士 | 感覚・運動系のアセスメントに必要な基礎知識の理解。観察方法や末梢神経及び循環障害の評価、日常生活でのケア、予防について学ぶ。 | 第2中央診療棟 4階 シミュレーションセンター |

6.セルフケア支援

セルフケアのアセスメント、支援方法について理解し、実践できる。

| 講座ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|------|------------------------|------------------------|------------------|--------------------------|---|--------------------|
| 0601 | 6月26日(水) 9:00~10:30 | ★必須 訪問看護実践に役立つ概念・理論 | にしな ゆうこ 仁科 祐子 | 鳥取大学医学部 保健学科 地域・精神看護学 | セルフケア、ICF（国際生活機能分類）、意思決定支援、継続看護マネジメント等の理解を深め、自分の実践にどのように活用できるかを考える。 | アレスコ棟1階 211 講義室 |

7.家族支援

家族の意思決定支援、家族のセルフケア能力の基本を理解する。家族看護における看護職の役割を知る。

| 講座ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 |
|------|------------------------|-----------|--------------------|-------------------------|----------------------------|
| 0701 | 10月2日(水) 9:00~10:30 | 家族看護とは何か | みなみまえ けいこ 南前 恵子 | 鳥取大学医学部保健学科 地域・精神看護学 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | 10:40~12:10 *連続受講 | 家族の意思決定支援 | | | |

8. エンド・オブ・ライフケア

人生の終焉にある人々を対象とした死にゆく人やその家族へのケアについて理解する。「家で過ごすこと」、在宅の場で自分らしい人生の終焉を支えるケアについて理解する。

| 講座 ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|-------|---|--------------|------------------|------------------------------|--|----------------------------|
| 0801 | 10月2日(水) 13:00~14:30 14:40~16:10 ※連続受講 | 死生観について | おおば けいこ 大庭 桂子 | 鳥取大学医学部 保健学科 成人・老人看護学 | 死の疑似体験(1人称の死)を通して、死生観と看護について思考する。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | | 看取り | | | 臨死期に焦点を当て、対象となる方を全人的に捉える視点や家族へのケアの視点について確認し、看取りケアについて振り返り、学びを深める。 | |
| 0802 | 7月25日(木) 13:00~14:30 | 地域・在宅での死を考える | よしの やすこ 吉野 靖子 | 認知症の人と家族の会 看護師 介護支援専門員 | 臨死期に関わる際の心構えとグリーフケア・ACPについて理解を深める。実際の在宅の現場での関わりを知ること、ターミナルケアと家族への対応について学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

9. 対人関係

実践の場において、何らかの問題に直面している対象者に対して、対象者の話を聴きながら、共感的に対象者の経験や気持ちを理解しようとする上で必要な面接の機能や進め方など基本的な知識や技法について理解する。

| 講座ID | 日時 | 講義名 | 講師 | 講義内容 | 講義室 | |
|------|--|--|-----------------|-----------------------------|---|----------------------------|
| 0901 | 7月19日(金) 13:00~14:30 14:40~16:10 ※連続受講 | 自己理解、他者理解と相互作用 | 高間 さとみ | 鳥取大学医学部保健学科 地域・精神看護学講師 | 自己理解を深めるワークを通し、援助的対象関係を深めるコミュニケーションのヒントを見つけます。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | | 感情労働と患者-看護師関係 | | | 感情活用や感情労働について学び、援助的対象関係における関係性のアセスメントを深めます。 | |
| 0902 | 11月18日(月) 13:00~14:30 14:40~16:10 ※連続受講 | コミュニケーションスキル ～精神疾患を持つ人との コミュニケーションの視点(事例展開)～ | たかだ くみ 高田 久美 | 南部町訪問看護ステーション (精神科認定看護師) | 精神障害を持つ人の理解、支援のポイント、ケアに必要な視点等について学ぶ。演習を通してコミュニケーションの原則を再確認する。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |
| | | 在宅看護の難しい場面への対応 ～対人関係と精神看護～ | | | 対人関係の理解とアセスメントする方法や患者-看護師間で起こりやすい問題を分析し、事例を通してコミュニケーションの方法について学ぶ。 | アレスコ棟4階 医療スタッフ研修センター講義室 |

＊DVD学習（※10～12：認定看護師教育課程 共通科目）

※貸出を希望される方は、在宅医療推進支援室（T-HOC）までお申し出ください。

10. リーダーシップ

集団や組織の目標や課題を達成する上で必要なリーダーシップ活動について理解する。

実践の場において、質の高い看護ケアを提供していく上で必要な認定看護師のリーダーシップの役割について考察する。

| ID | 講義名 | 講師 | | 撮影年月 |
|------|---------------------------|--------|----------------------|-----------|
| 1001 | リーダーシップ理論 | 徳田 順子 | 鳥取赤十字病院 看護副部長 | 2015年 9月 |
| 1002 | 組織変革／変革理論 | | | 2015年 9月 |
| 1003 | 認定看護師に求められるリーダーシップ【上巻・下巻】 | 中村 真由美 | 鳥取大学医学部附属病院 看護部長 | 2015年 10月 |
| 1004 | リーダーシップとグループマネジメント【前編・後編】 | 藤井 春美 | 鳥取大学医学部附属病院 副看護部長 | 2015年 10月 |
| 1005 | リーダーシップ理論を臨床に応用した事例展開【前編】 | 佐々木佐登美 | 鳥取大学医学部附属病院 副看護部長 | 2015年 10月 |

11. 指導

組織内外の看護者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を養う。

| ID | 講義名 | 講師 | | 撮影年月 |
|------|------------------------|-------|--------------------------|-----------|
| 1101 | 生涯教育理論【前編・後編】 | 深田 美香 | 鳥取大学医学部 保健学科 基礎看護学 教授 | 2015年 10月 |
| 1102 | 成人学習理論【前編・後編】 | | | 2015年 10月 |
| 1103 | 成人学習者の特性と教育指導計画【前編・後編】 | | | 2015年 10月 |

12. 看護倫理

実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自己決定を尊重した看護を提供するため、看護倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。

| ID | 講義名 | 講師 | | 撮影年月 |
|------|---------------------------|-------|---------------------------|-----------|
| 1201 | 医療と倫理 倫理原則【①～③】 | 安藤 泰至 | 鳥取大学医学部 保健学科 基礎看護学 准教授 | 2015年 9月 |
| 1202 | 医療と倫理 インフォームドコンセント | | | 2015年 9月 |
| 1203 | 医療と倫理 尊厳死・安楽死の概念 | | | 2015年 9月 |
| 1204 | 看護倫理の理論的基礎【前編・後編】 | 笠城 典子 | 鳥取大学医学部 保健学科 基礎看護学 准教授 | 2015年 10月 |
| 1205 | 看護における倫理的ジレンマとその分析【前編・後編】 | | | 2015年 10月 |

（所属・役職名は撮影時のものです）

13. 看護技術

| ID | タイトル | 収録内容 | 製作・著作 |
|------|--------------------|---|--------|
| 1301 | 在宅看護・訪問看護の基本 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護の技術 ・多職種連携 ・コミュニケーション ・環境整備 | メディカ出版 |
| 1302 | 在宅療養生活における基本的な技術 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活リハビリテーション ・感染予防 ・ターミナルケア ・排痰ケア | メディカ出版 |
| 1303 | 療養を支える技術/栄養ケア・呼吸ケア | <ul style="list-style-type: none"> ・経管栄養法（経鼻経管栄養法・胃瘻） ・輸液管理 （中心静脈栄養法・末梢静脈栄養法） ・在宅酸素療法 ・在宅人工呼吸法（NPPV・TPPV） | メディカ出版 |
| 1304 | 療養を支える技術/排泄ケア・皮膚ケア | <ul style="list-style-type: none"> ・排尿ケア ・ストーマ管理 ・褥瘡管理 ・フットケア | メディカ出版 |
| 1305 | 在宅療養における災害対策と自己管理 | <ul style="list-style-type: none"> ・インスリン自己注射管理 ・在宅CAPD管理 ・在宅療養における災害対策 ・地域包括ケアシステムにおける災害対策 | メディカ出版 |

IV訪問看護に必要な知識の習得のための研修会や学術集会参加

14. 訪問看護に関する学会、研修会等

※訪問看護に関する学会、研修会及び各自が有益と考える会に出席される場合は事前に支援室までご連絡ください。参加された方は、受講証明書及び報告書（次ページ参照）、プログラム、チラシ等を支援室に提出してください。

※受講時間数への換算は、実際に参加された研修会等の内容・時間を審査して支援室が決定いたします。最大2コマまで換算できます。

| 学会名・研修会名 | 開催場所 | 講師 | 備考 |
|-------------------|-------------------------|----|----|
| 第14回 T-HOC 特別セミナー | 伯耆しあわせの郷 (倉吉市小田 458) | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

見本 鳥取大学医学部附属病院「在宅医療推進のための看護師育成プログラム」
受講証明書および報告書

| | |
|-------------|--------------|
| 受講生番号 〇〇〇〇〇 | 受講者氏名 〇〇〇〇〇〇 |
|-------------|--------------|

《受講証明書》

| | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 受講日時 | 平成28年12月3日(土) 10:00~16:00 |
| 会の名称 | 第9回鳥取県実践が生きる看護診断研究会 |
| 開催場所 | 鳥取大学医学部記念講堂 |
| 種別(該当するものに○) | 特別講演 教育講演 セミナー シンポジウム 研修会 その他 |
| 主催者 | 鳥取県実践が生きる看護診断研究会 |
| 主催者または受付担当者のサイン欄 (参加証のコピーでも可)* | |

《報告書》

【研修会等の受講による成果】

- 〇〇大学医学部地域医療教育研究センター〇〇〇〇教授の教育講演「看護過程と看護の可視化」に出席した。問題解決思考として、在宅復帰に向け、患者・家族の思いを汲んだうえで、病気をもつ生活者として捉えた患者情報から、適切なアセスメントを行い、適切な看護診断のもと看護計画を地域につなぐための具体的な思考方法を得ることができた。
- ワークショップ、研究発表に出席した。地域で暮らす生活主体として対象者をとらえて、看護を継続していくための工夫について多くの示唆が得られ、自分が所属する施設でも活用していきたい。

| | | |
|----------------|-----|-----|
| 在宅医療推進支援室: 受付日 | 月 日 | 確認欄 |
|----------------|-----|-----|

* 本受講証明書および報告書は、鳥取大学医学部附属病院看護師育成プログラム Ⅲ訪問看護能力強化コース受講生が、貴会主催による研究会などに参加したことにより、講義の受講数として加算するための証明書です。
お手数ですが、受付担当者のご氏名を、サインしていただきますようお願い申し上げます。

お問い合わせ: 鳥取大学医学部附属病院 医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室 TEL: 0859-38-6994

★報告書用紙は、在宅医療推進支援室 (T-HOC) までご連絡いただくか、ホームページからダウンロードできます。

【検索: 鳥大在宅】 ▶ 鳥取大学医学部附属病院 在宅医療推進のための看護師支援事業
▶ コース紹介 ▶ Ⅲ 訪問看護能力強化コース ▶ Ⅲコース: 各種記録用紙について ▶
【学会等】受講証明書及び報告書 (Word・PDF)

《お問い合わせ》

鳥取大学医学部附属病院医療スタッフ研修センター
在宅医療推進支援室 (T-HOC)

電話: 0859-38-6994

FAX: 0859-38-6996



問い合わせフォーム ↑